

カジュアル・クルーズ事業化推進検討に関する調査

瀬戸内カジュアルクルーズ事業化推進委員会

1. 概要

目的

日本におけるクルーズ事業の一層の振興を図るため、我が国の船旅市場の現状、日本人のライフスタイル、地域に合わせたクルーズ形態等を分析し、新たな事業モデルを模索するなどして、民間ビジネスとしてのクルーズの事業化に向けた検討を行う。

手法

海運業、造船業、旅行業、DMO、金融業、大学等の多分野にわたる関係者で瀬戸内海を事例として議論・分析を行い、将来全国的に展開しうるクルーズ事業のモデルを検証する。

2. クルーズ事業の課題等

市民の壁

- ・金額が高い
- ・長期休暇が必要
- ・船酔いが心配

事業者側の壁

- ・初期コストが高額
- ・需要が見えない
- ・海域利用者との調整
- ・観光人材の不足

3. 目指すべき瀬戸内クルーズ事業

目標とすべきカジュアルクルーズ

誰でも

いつでも

近くに

短く

手頃な
価格で

海を楽しめる

大型クルーズ客船

- ・スケールメリットを活かした低廉なカジュアル・クルーズの具現化
- ・船舶調達もしくは外国船社との連携が不可避→長期課題

デイクルーズ船 (レストラン船)

- ・定期性や定時性などのカジュアルさ、船上での多島美景観に加え、船上での飲食を付加価値とした魅力の向上

デイクルーズ船 (遊覧船)

- ・陸上の食や観光を楽しむ島めぐりや都市観光の一部として海に気軽に親しめる湾内クルーズ など

～瀬戸内のメリット～

- ・瀬戸内海は自然景観や観光名所も多数存在。
- ・内海のため年間を通じて海域が静穏(船酔いの恐れが少ない)

したがって、デイクルーズ事業化について本格的に検討するとともに、海域利用者等との調整の体制づくりなどが必要。

4. 新たなクルーズ事業の創出に向けた今後の検討

クルーズ事業の現状分析と課題抽出等を踏まえ、今後事業化し得るビジネスモデルを仮定し、せとうちDMO（クルーズ部会）に体制を作り、平成30年度以降も引き続き検討を行う。

1. おさんぽクルーズの深化

【取組内容】

広島湾、呉、尾道を拠点に（株）瀬戸内海汽船を中心に取り組んでいるおさんぽクルーズに、テーマ、エンタメ、サービス等、地域と季節に合わせた新たな要素を盛り込み、**ネーミングも新たに一年中楽しめるクルーズ事業の実現**を目指す。

【検討者候補】 ※あくまで候補であり、個社の確約を経たものではない。

- ・船舶運航
瀬戸内海汽船、その他船舶事業者
- ・船上コンテンツ
市内宿泊施設等
- ・企画、旅行商品化、販売
JTB、鉄道事業者等

2. 島めぐりクルーズの実現

【取組内容】

高松港を拠点とし、男木島、女木島、壇之浦合戦史跡などを周遊。**島々をめぐる、文化、アート、グルメ、風景などを堪能する新しい観点のクルーズ事業の実現**を目指す。

高松市内で宿泊するプランや鉄道網と連携したレイル&クルーズも合わせて検討する。

【検討者候補】 ※あくまで候補であり、個社の確約を経たものではない。

- ・船舶運航
定期航路事業者
- ・企画連携
穴吹トラベル、高松市宿泊施設、鉄道事業者
瀬戸内海汽船（船の貸与）等
- ・企画、旅行商品化、販売
穴吹トラベル、JTB等

3. 分野横断的な協力・連携

○産・学・地域連携による海洋教育と人材育成

海運業や観光業、各地域の大学・関係団体等が協力し、クルーズ船上で講義や学会を実施する等、**地域の観光資源としてクルーズを教育することで、これからのクルーズ事業を支える若者を育成**する。

○官民連携協議会の立上げ

地域における海洋教育やクルーズ事業を盛り上げるため、**国・地方公共団体と事業団体・事業者による協議会を設立し、観光ルートの形成、関係者との調整、制度の運用の弾力化等**を検討する。